

令和7年8月27日（水曜日）

中津市立今津中学校 高橋 克至先生の授業です。

授業の単元は、第1学年「文字と式」。正三角形の形に並べた磁石の個数の求め方を見だし、その求め方を文字式で表現したり、求めた式を数学的な表現を用いて説明したりする場面です。

導入において、正三角形の1辺の磁石の数が3個や4個のときの磁石の総数といった具体的な問題からスタートし、教師と生徒がやり取りしながら数学の事象を数理的に捉え、数学的な問題を見いだす過程を充実させることで、生徒の主体性を育むための工夫がなされていました。

また、課題解決に向けた支援の方策として、各辺の磁石の囲み方を見いだすためのヒントカードを1人1台端末の授業支援アプリを用いて配布するとともに、困りを感じている生徒に寄り添って個別指導を実施するなどし、生徒一人一人を取り残すことがないよう心掛けていました。

事後研には、中津市教育委員会指導主事も参加し、生徒が本時における問いを引き受けることができているかなど生徒の理解の状況を見取ることの重要性、小学校の学習内容との接続を意識すること、説明の際に数学的な表現を用い、不十分な説明であれば生徒同士で補完していくことなどの大切さ等について確認しました。今後も困りを感じている生徒への手立てを想定した丁寧な授業を心掛け、数学的に考える資質・能力の育成を目指した授業を続けてほしいと思います。

